

表 21

「性的指向・性別不合の人びとの人権」に関する考え方	合計	そう思う	どちらかそう思う	どちらかそうない	そうは思わない	無回答
1 同性愛については、受け入れたいと思う	1420	33.0%	40.8%	15.6%	9.1%	1.6%
2 性別不合については、受け入れたいと思う	1420	37.5%	46.3%	9.6%	4.7%	1.8%
3 家族から同性愛者とカミングアウトされたら受け入れられない	1420	8.5%	23.3%	39.2%	26.5%	2.5%
4 同性のカップルが近所に住むのは気にならない	1420	35.7%	29.9%	18.4%	14.2%	1.8%
5 同性婚を認めても良いと思う	1420	42.7%	34.9%	12.5%	7.5%	2.4%
6 トランスジェンダーの人も困らないようにトイレの施設整備や配慮をしていくのが望ましい	1420	38.7%	43.9%	10.6%	4.5%	2.3%
7 家族から性別不合とカミングアウトされたら受け入れられない	1420	8.2%	23.0%	37.3%	28.7%	2.8%
8 職場に同性愛者の同僚・上司がいても問題ないと思う	1420	45.8%	37.3%	10.8%	4.2%	1.9%
9 三田市の同性パートナーシップ宣誓制度は、賛成（理解できる）である	1420	46.8%	37.7%	7.4%	5.2%	2.8%

表 22

「性的指向・性別不合」に関する考え方	第1因子	共通性
9 三田市の同性パートナーシップ宣誓制度は、賛成（理解できる）である	0.801	0.641
5 同性婚を認めても良いと思う	0.782	0.612
8 職場に同性愛者の同僚・上司がいても問題ないと思う	0.741	0.549
3 家族から同性愛者とカミングアウトされたら受け入れられない（逆）	0.669	0.447
7 家族から性別不合とカミングアウトされたら受け入れられない（逆）	0.662	0.439
6 トランスジェンダーの人も困らないようにトイレの施設整備や配慮をしていくのが望ましい	0.581	0.337
因子寄与率	50.4	
因子累積寄与率	50.4	
クロンバックの信頼性係数	0.855	
因子解釈	多様な性 受容意識	

因子抽出法: 主因子法 バリマックス回転法

因子分析の結果、「9 三田市の同性パートナーシップ宣誓制度は、賛成（理解できる）である」、「5 同性婚を認めても良いと思う」、「8 職場に同性愛者の同僚・上司がいても問題ないと思う」、「3 家族から同性愛者とカミングアウトされたら受け入れられない（逆）」、「7 家族から性別不適合とカミングアウトされたら受け入れられない（逆）」、「6 トランスジェンダーの人も困らないようにトイレの施設整備や配慮をしていくのが望ましい」の6変数が1因子に収斂した。いずれも、多様な性的指向・性別不適合の人びとを受け入れる意識と解されることから、「**多様な性受容意識**」因子と名付ける。

クロンバックの信頼性係数は0.855と高く、尺度化にあたっては問題ないと判断できる。

これら6変数への回答の点数の平均値を「**多様な性受容度**」尺度とする。1から4に分布する。

12) 「犯罪被害者の方やその家族に関する人権」に関する考え方

表23は、「犯罪被害者の方やその家族に関する人権」に関する考え方を測るために用意した4変数の度数分布である。

表 23

「犯罪被害者の方やその家族に関する人権」に関する考え方	合計	そう思う	どちらか 思えば そう 思う	どちら 思わ ない そう かと	そう は 思 わ ない	無 回 答
1 犯罪被害者に対する公的な（経済的）補償は十分だと思う	1420	4.7%	18.5%	45.8%	26.5%	4.4%
2 犯罪被害者の方やその家族のことを好奇心でみてしまうのは好ましくない	1420	59.6%	32.7%	3.2%	2.4%	2.0%
3 犯罪被害者の方やその家族への過剰な取材や報道は制限すべきだ	1420	76.5%	18.6%	1.8%	1.3%	1.8%
4 犯罪被害者に対する法的支援・医療支援は不十分だと思う	1420	29.2%	39.9%	18.8%	7.9%	4.2%

これら4変数を用いて因子分析を行う。

因子分析を行うにあたって、人権意識の低いほど点数が低くなるように、選択肢を並び替える。「2 犯罪被害者の方やその家族のことを好奇心でみてしまうのは好ましくない」、「3 犯罪被害者の方やその家族への過剰な取材や報道は制限すべきだ」、「4 犯罪被害者に対する法的支援・医療支援は不十分だと思う」の3変数については、「そうは思わない」1、「どちらかと言えばそうは思わない」2、「どちらかと言えばそう思う」3、「そう思う」4と変換する。

因子分析の結果は、表24のとおりである。

表 24

犯罪被害者の人権に関する考え方	第1因子	共通性
3 犯罪被害者の方やその家族への過剰な取材や報道は制限すべきだ	0.707	0.5
2 犯罪被害者の方やその家族のことを好奇心でみてしまうのは好ましくない	0.707	0.5
因子寄与率	50.0	
因子累積寄与率	50.0	
クロンバックの信頼性係数	0.659	
因子解釈	犯罪被害者 尊重意識	

因子抽出法: 主因子法 バリマックス回転

因子分析の結果、「3 犯罪被害者の方やその家族への過剰な取材や報道は制限すべきだ」、「2 犯罪被害者の方やその家族のことを好奇心でみてしまうのは好ましくない」の2変数が1つの因子に収斂した。この因子を「**犯罪被害者尊重意識**」因子と名付ける。クロンバックの信頼係数は0.659であり、尺度化において問題ないと判断できる。

これら2変数への回答の点数の平均値を「**犯罪被害者尊重度**」尺度とする。

13)人権意識尺度の小括

ここまで、人権意識を測定するためのさまざまな尺度を作成してきた。

これらの尺度を用いて、人権施策につなげる知見を導くに先立って、作成した尺度を確認しておこう。以下の尺度の中で、*印を付している尺度については、尺度としての一定の有効性が確認されたものと評価される、*印を付していない尺度については、尺度としての有効性を高めるためにさらなる検討が必要である。尺度の名称についても、よりふさわしい名称がないかどうか、さらに検討が必要である。

のみならず、いずれの尺度についても、今後、実際に使ってみたり、他の自治体で実施される人権意識調査のデータによって尺度化を試みたりすることによって、同様の結果になるかどうかを検討しながら尺度としての信頼性を高める必要がある。

<人権尊重理解度>*

- ・だれもが最低限の生活が保障されること
- ・だれもが差別されることなく生きやすいこと
- ・人とのちがいが大切にされること
- ・個人としての自由な生き方が尊重されること

各回答者にこれら4項目について、「そう思う」、「どちらかと言えばそう思う」、「どちらかと言えばそうは思わない」、「そうは思わない」の4択で回答を求め、「そう思う」

4、「どちらかと言えばそう思う」3、「どちらかと言えばそうは思わない」2、「そうは思わない」1と点数化し、4項目の点数の平均値を各回答者の人権尊重理解度得点とする。

以下の尺度も同様である。(逆)を付した項目は点数を逆にする。

<差別理解度>

- ・差別の原因は、差別をされる人の側にもある(逆)
- ・差別、差別と騒ぎすぎるので、かえって差別はなくならないと思う(逆)
- ・差別をされた人のくやしさを分からなくても仕方ない(逆)

<差別非許容度>

- ・差別発言を耳にした場合、やめるように注意したい
- ・人権学習に参加したいと思う

<寝た子を起こす度>*

- ・そっとしておけば部落差別はなくなる(逆)
- ・部落差別について学習するから差別はなくならない(逆)
- ・部落差別をなくすために啓発活動に力を入れるべきだ

<部落忌避反対度>

- ・今後も部落差別はなくならないと思う(逆)
- ・引っ越しをする場合、差別を受けてきた地域かどうか気になる(逆)

<障害者包摂度>*

- ・障害のある人にはかかわりたくない(逆)
- ・近所に障害者施設が建つのはいやだ(逆)
- ・障害のある人が地域で暮らせるようにサポートすることが望ましい
- ・身近に住む障害のある人が虐待を受けている疑いがあると感じたら 通報することが望ましい
- ・障害のある人をじろじろとみたり、避けたりすることは望ましくない

<外国籍包摂度>*

- ・近所に外国籍の人が多く住んでいると治安が心配である(逆)
- ・外国籍という理由でアパートを貸してもらえないのは仕方がない(逆)

<外国籍尊重度>

- ・外国籍の人の国の歴史や文化を尊重すべきだ
- ・職場に外国籍の人が増えるのは好ましいと思う
- ・外国籍の人が差別的な言葉や行動を受けることは許せない

<子ども尊重度>*

- ・教師が、子どもを指導するために体罰を加えることも必要だ（逆）
- ・親が、子どものしつけのために体罰を加えるのは仕方ない（逆）
- ・不登校は本人の甘えも関係しているのではないかと思う（逆）
- ・いじめは、いじめを受ける側にも問題があるのではないかと思う（逆）

<子ども理解度>

- ・大人はもっと子どもの意見に耳を傾けるべきだ
- ・地域の居場所づくりの取り組みに参加したい
- ・子どもの前で、父親が母親（または、母親が父親）に暴力を振るったり暴言を吐いたりすることは子どもへの虐待である

<男性優位否定度>*

- ・女性は結婚する時、男性の姓を名乗るほうがよい（逆）
- ・女性は男性を立てるべきだ（逆）
- ・母親は子どもが3才ぐらいまでは育児に専念することが望ましい（逆）
- ・女性が「土俵に上がれない」「祭りのみこしに乗れない、担げない」など女人禁制のしきたりがあるが、伝統として尊重すべきだ（逆）

<男女参画支持度>

- ・昇給・昇進など、職場で男女の処遇に違いがあるのは問題だ
- ・ドメスティック・バイオレンス（DV）は振るう側にこそ問題がある
- ・男性も積極的に育児休業をとるべきだ

<DV理解度>

- ・知り合いの女性から夫のDVについて相談を受けた場合、ふたりできちんと話し合いをするように忠告したい（逆）

<高齢者包摂度>*

- ・高齢者が能力を発揮できるように就労や社会活動の機会を増やすべきだ
- ・高齢者は人生の先輩として尊敬されるのが望ましい
- ・地域の高齢者の方々と積極的に交流していきたい
- ・高齢になっても高齢者施設であれ、住み慣れた地域であれ、生活するところを自分で選べるのが望ましい

<高齢者支援度>*

- ・高齢者に対する法的支援・医療支援は不十分だと思う
- ・高齢者に対する公的な（経済的）保障は十分だと思う（逆）

<多様な性受容度>*

- ・三田市の同性パートナーシップ宣誓制度は、賛成（理解できる）である
- ・同性婚を認めても良いと思う
- ・職場に同性愛者の同僚・上司がいても問題ないと思う
- ・家族から同性愛者とカミングアウトされたら受け入れられない（逆）
- ・家族から性別不適合とカミングアウトされたら受け入れられない（逆）
- ・トランスジェンダーの人も困らないようにトイレの施設整備や配慮をしていくのが望ましい

<犯罪被害者尊重度>*

- ・犯罪被害者の方やその家族への過剰な取材や報道は制限すべきだ
- ・犯罪被害者の方やその家族のことを好奇心でみてしまうのは好ましくない

<子の結婚・子の意思尊重度>*

子の結婚条件の尺度化として、選択肢を、「結婚を認めない」1, 「周囲の反対があれば結婚を認めない」2, 「わからない」3, 「子どもの意思を尊重する」4 と点数化する。

- ・本人または家族に障害のある人
- ・被差別部落出身の人
- ・刑を終えて出所した人またはその家族
- ・外国籍・他民族の人

<自分の結婚・親戚説得度>*

自分の結婚条件の尺度化として、選択肢を、「結婚を諦める」1, 「わからない」2, 「説得はせず結婚する」3, 「親戚を説得する」4 と点数化する。

- ・本人または家族に障害のある人
- ・被差別部落出身の人
- ・刑を終えて出所した人またはその家族
- ・外国籍・他民族の人

3 基本属性と人権意識度との関連

まず、性差、年齢差によって人権意識度が有意に異なるのかどうか確認する。なお、「高齢者支援度」については、回答者の大半が支持していることから、以下の分析では省いている。

表 25 は、性別と各人権意識度との関連を集計したものである。数値が高いほど人権意識が高いことを示している。

なお、本文では、性別において、「答えることができない・答えたくない」人びとを、「性別未回答者」と表記することをお断りしておく。回答者 1420 人のうち、「男性」630 人、「女性」763 人、「性別未回答者」12 人、「無回答」15 人であった。

平均値を求めるにあたっては、「無回答」は、分析から省いている。また、性別未回答者は少数者であることから、あくまでも参考値である。

表 25 によると、「人権尊重理解度」、「差別理解度」、「障害者包摂度」、「子ども尊重度」、「子ども理解度」、「男性優位否定度」、「DV 理解度」、「高齢者包摂度」、「多様な性受容度」、「犯罪被害者尊重度」は、概ね男性よりも女性、さらに性別未回答者の順で、人権意識度が高い結果となっている。他方、「差別非許容度」、「子の意思尊重」、「親戚説得」、「寝た子を起こす度」、「部落忌避反対度」、「外国籍包摂度」、「外国籍尊重度」「男女参画支持度」は、性別との間に統計的有意差が認められない結果となった。

表 25

F1 性別	q1人権尊重理解	q2被差別理解	q2差別非許容	q3.1子の意思尊重	q3.2親戚説得	q8寝た子起こす	q8部落忌避反対	q9障害者包摂	q10外国籍包摂
男性	3.5	2.8	2.5	3.4	3.0	2.8	2.8	3.4	3.1
女性	3.6	2.9	2.6	3.3	2.9	2.8	2.8	3.5	3.0
性別未回答者	3.7	3.2	2.7	3.4	2.9	2.9	3.0	3.5	2.9
合計	3.6	2.9	2.6	3.4	3.0	2.8	2.8	3.4	3.0
F値：有意確率	***	***	-	-	-	-	-	**	-
F1 性別	q10外国籍尊重	q11子ども尊重	q11子どもの理解	q12男性優位否定	q12男女参画支持	q12DV理解	q13高齢者包摂	q14多様な性受容	q15犯罪被害者尊重
男性	3.2	2.8	3.0	2.8	3.3	2.7	3.1	3.0	3.6
女性	3.2	3.2	3.1	2.9	3.4	3.0	3.2	3.2	3.7
性別未回答者	3.3	3.3	3.3	3.1	3.3	3.6	3.1	3.4	3.8
合計	3.2	3.0	3.1	2.8	3.3	2.9	3.2	3.1	3.6
F値：有意確率	-	***	***	*	-	***	*	***	*

ところで、18 種の人権意識度の中で、「子の意識尊重度」、「親戚説得度」以外の 16 種の人権尺度の選択肢はすべて同じであり、すべての尺度の作成方法が共通である。このことから、単純な比較にすぎないが、16 種の人権意識度の中で、市民全体として比較的人権意識が高いと評価できる人権課題と、さらに人権学習や人権啓発に力を注ぐ必要のある人権課題が浮き彫りになってきたと解される。

比較的人権意識度が高いのは、「人権尊重理解度」3.6、「犯罪被害者尊重度」3.6 である。

他方、人権意識度が低いのは、「差別非許容度」2.6、ついで、「寝た子を起こす度」

2.8、「部落忌避反対度」2.8、「男性優位否定度」2.8である。

次の表 26 は、年齢と人権意識度との関連について検討したものである。

表 26

F2 年齢	q1人権 尊重理 解	q2 被差 別理解	q2 差別 非許容	q3.1子 の意思 尊重	q3.2親 戚説得	q8寝た 子起こ す	q8部落 忌避反 対	q9障害 者包摂	q10外国 籍包摂
10歳代	3.8	2.9	2.8	3.4	3.2	3.0	3.0	3.5	3.4
20歳代	3.7	2.8	2.7	3.4	3.1	3.0	2.8	3.4	3.1
30歳代	3.6	2.8	2.5	3.4	3.1	2.7	2.8	3.3	3.0
40歳代	3.5	2.8	2.6	3.3	2.9	2.7	2.7	3.5	2.9
50歳代	3.5	2.9	2.6	3.3	2.9	2.7	2.6	3.4	2.8
60歳代	3.5	3.0	2.5	3.4	2.9	2.7	2.9	3.5	3.1
70歳代以上	3.5	2.8	2.6	3.3	2.8	2.6	2.8	3.5	3.0
合計	3.6	2.9	2.6	3.4	3.0	2.8	2.8	3.4	3.0
F値：有意確 率	***	***	***	-	***	***	**	**	***
F2 年齢	q10外国 籍尊重	q11子ど も尊重	q11子ど もの理 解	q12男性 優位否 定	q12男女 参画支 持	q12DV 理解	q13高齢 者包摂	q14多様 な性受 容	q15犯罪 被害者 尊重
10歳代	3.4	3.3	3.2	2.9	3.5	2.6	3.2	3.4	3.6
20歳代	3.3	3.1	3.2	3.0	3.5	2.9	3.1	3.5	3.6
30歳代	3.1	3.0	3.1	2.9	3.3	3.1	3.1	3.3	3.6
40歳代	3.2	3.0	3.1	2.8	3.3	3.1	3.1	3.2	3.6
50歳代	3.1	2.9	3.0	2.8	3.3	2.9	3.2	3.0	3.7
60歳代	3.2	3.1	3.1	2.9	3.3	2.9	3.2	3.0	3.7
70歳代以上	3.1	2.9	3.0	2.6	3.2	2.4	3.2	2.7	3.7
合計	3.2	3.0	3.1	2.8	3.3	2.9	3.2	3.1	3.6
F値：有意確 率	***	***	*	***	***	***	***	***	-

表 26 によると、「子の意思尊重」と「犯罪被害者尊重度」を除いた 16 の人権意識度において、年齢と人権意識度と関連のあることがわかる。総じて、年齢が低いほど人権意識度は高い傾向にあると言える。おそらく、60 歳代以上は、公教育において同和問題学習や人権学習を経験していない世代である。その意味で、年齢が低いほど人権意識が高いのは、学校教育をはじめとする人権学習や人権啓発の成果と評価できるかもしれない。

ただ、詳細にみると、「男性優位否定度」は、20 歳代よりも 10 歳代において数値が低くなっている。また、「DV 理解度」も、30 歳代、40 歳代よりも、20 歳代、さらに 10 歳代において数値が低くなっている。若い世代におけるジェンダー平等教育の必要性と重要性が示唆される。

次に、表 27 は、職種と各人権意識度との関連を示したものである。